

玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2022年1月②号



新型コロナウイルスオミクロン株の感染者が急増

日本共産党京都市会議員団として、市民の命を最大限守る取組みを求めて、京都市長に申し入れをしました。

毎日、京都府内では1500人を超える感染者が確認され病床使用率も40%を超えています。京都市内でも毎日1000人近い感染者が確認され、学校や保育園などでの感染も多くある中、学級閉鎖や保育園の休園が相次ぎ、市民生活に大きな影響を与えています。

保健所からの連絡も3日も入らず、市民は自宅待機で、どうしたらいいのか、すぐにPCR検査をして感染状況を確認したいのに、検査キットがなかなか届かない等と大混乱となっています。京都市内で一箇所の保健所で対応するのは限界があります。各区役所に感染対策の役割を持ち、地区医師会の先生のご協力を得るような取組みをはじめ、住民に寄り添った支援が求められています。



市会議員団全員で申し入れ。前列右から3番目が玉本市議

民間保育園等職員等運用事業補助金の再構築の撤回を

京都市が発表した民間保育園の補助金を減らす計画に対して



撤回を求め、京都市に申し入れをしました。国の保育制度の不十分な点を補う補助を削減することは、保育の質の低下に繋がります。

◆食糧提供プロジェクトを開催◆

日本民主青年同盟の若者や北区食糧提供プロジェクトも後援をして実施されました。場所は西賀茂診療所のガレージで、昨年4月に引き続きご厚意でお貸しいただきました。御菌橋通りに面しており、たまたま通った方も「助かります」と喜ばれました。女性の方には生理用ナプキンも京都市からの提供があり、喜ばれていました。

私は浜田府会議員と共に、相談コーナーで、お話を伺いました。長引くコロナ禍で学生さんや青年の暮らしぶりは深刻化しています。（関連記事：アンテナ参照）



西賀茂診療所のガレージをお借りして、食糧提供

「ジェンダー平等連続講座」

日本共産党は、ジェンダー平等を推進を活動の柱としています。今回、ジェンダー等の研究者・精華大学講師のあかたちかこさんを講師に「ジェンダーって何？はじめの第一歩」を開催。男女の賃金格差の問題やLGBT等について学びました。あかたさんのお話はわかりやすく、男性にももっと参加してもらおうよう、引き続き連続で開催してきます。



コロナ禍により、広い部屋を借り、ZOOMも活用しました。

食事を2食に……

アンテナ

食糧提供プロジェクトの取組みがあり、相談コーナーなどのボランティアとして参加しました。困っていることの多くに「アルバイトのシフトに入れてもらえない」「学費と下宿代は親に出してもらっているけど、生活費は自分で稼いでいる。食糧提供はありがたい」「奨学金は毎月5万円借りているが、40才近くまで返済しないといけないのが憂鬱」そして、ショックだったのが20歳の若者が「食事の回数減らしている」と言うので、それって、「1日2食ってこと？」と聞くと「そうっすね」と明るく答えてくれましたが、胸が締め付けられる思いでした。

2回生の方は入学当初からコロナ禍に突入し、オンライン授業が主流、クラブ等もできずに、学生生活がとても制約されています。しかも学費は高いまま。学

費をせめて半額にする。給付制の奨学金を増やすこと、早く実現したいです。



学生さんからお話を聴く玉本市議

